

第1学年外国語 学習指導案

妙高市立妙高中学校
教諭 栗岩 知美

1 日時

平成24年7月11日(水) 第5限(14:05~14:55)

2 学級

第1学年B組(28名)

3 学級観

全体的に明るい雰囲気での学習できる学級である。コミュニケーション活動では、協力し、楽しく積極的に取り組む姿が見られる。小学校での学びが自信につながり、興味関心をもって授業に臨む生徒が多い。一方で、中学に入学して初めて英文を書くことを経験している生徒も多く、すでに「書くこと」に対して苦手意識をもっている生徒もいる。定期テストの結果や学習の様子から、学力に二極化が現れてきているのが現状である。外国語活動を経験してきている生徒たちなので、話すことには積極的に取り組むものの、書くことを苦手としている生徒たちへの配慮を心がけ、適切な支援を行っていきたい。

4 教材

教科書 Sunshine English Course 1(開隆堂)

単元 Program 5 国際フードフェスティバル

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、主人公の由紀と武史がインドから来た友人と「国際フードフェスティバル」を訪れるという場面設定である。そこで、インドの食文化や韓国の民族衣装に触れたり、インドの友人の家族を紹介してもらったりして、異文化理解が図られている。国際フードフェスティバルの会場を歩きながら異文化に触れるという場面設定を通して、ターゲットである言語材料の疑問詞 **where** や三人称の代名詞が効果的に使われ、本文中に繰り返し表現されている単元である。言語材料としては、**be** 動詞の **is** や **what** に続いての2つ目の疑問詞 **where** などが新出事項である。

何気ない3人の動きの中にある国際理解、異文化理解に気付かせたり、考えさせたりしながら、本単元の内容(背景資料)を活用し、身近な友達や身の回りの物を紹介したり、たずねたり答えたりする力を付けさせたい。

(2) 生徒観

小学校における2年間の外国語活動を通して、多くの生徒が「Are you ~?」「Do you ~?」「I like ~」などの表現に慣れ親しんでおり、今までの言語材料に関しても比較的スムーズに導入することができた。また、その中で、「Here you are.」「Thank you.」「Hi.」などの表現も自然に使うことができる。音のつながりを意識しながら音読できる生徒も少なくない。定期テストの結果から、一般動詞と **be** 動詞を混同してしまっている生徒が若干いるが、ほとんどの生徒が **be** 動詞や一般動詞を用いて自己紹介することができた。しかし、先に述べたように、すでに「書くこと」に苦手意識をもっている生徒もおり、配慮が必要である。

(3) 指導観

小学校での外国語活動で **is** や **where** の表現には触れており、イメージとしてはとらえやすいと考える。それぞれの表現の形・意味・用法を理解し、小学校での外国語活動を生かしながら、簡単な対話を用いて繰り返し言ったり、書いたりすることで定着を図っていきたい。具体的には、外国語活動での学びを生かし、文の構造など文法的な説明から入らず、まずは、チャンツを用いてリズムに乗りながらターゲットセンテンスを十分に口頭練習し、口で慣れさせていきたい。そして、ウォームアップやチャンツで用いたフレーズや語彙をそのまま活動に用いたり、小学校で経験した活動や似ている活動を仕組んだりすることで、スムーズにその活動に入れるように工夫したいと考え

る。また、最後に書く活動を必ず取り入れることで、定着を図っていきたい。

6 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

- ・話すことの活動において、間違いを恐れずに積極的に話したり答えたりしてコミュニケーションを続ける。
- ・be 動詞を用いた文の構造を理解し、身近にあるものや第三者を紹介する。
- ・場所を聞いたり表したりする表現を正しく理解し、ものがどこにあるかをたずねたり答えたりする。

(2) 評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 話すことの活動において、間違いを恐れずに積極的に話したり答えたりしてコミュニケーションを続けている。	① 友だちや家族、身の回りのものを口頭で紹介することができる。 ② 身近にあるものがどこにあるか、口頭でたずねたり答えたりできる。	/	① be 動詞を用いた文の構造を理解している。 ② 疑問詞 where を用いた文の構造を理解している。

7 指導計画 ※全8時間

指導内容	配当時間	単元の評価規準
○be 動詞の is を用いた文の構造を理解する。 ・be 動詞の is を用いた文の構造を知る。 ・be 動詞の is を用いた疑問文、否定文の構造を知る。 ・be 動詞の is を用いた文を使えるように練習する。 ・be 動詞の is を用いた疑問文の応答練習をする。 ・教科書本文から、be 動詞の is の使い方を理解する。 ・身近にあるものを紹介する。	2 時間	エ①
○疑問詞 where を用いた文の構造を理解する。 ・疑問詞 where を用いた文の構造を知る。 ・場所を表す前置詞の使い方を知る。 ・疑問詞 where を用いた文を使えるように練習をする。 ・教科書本文から、疑問詞 where や場所を表す前置詞の使い方を理解する。	2 時間 (本時 1 時間目)	ア① イ② エ②
○三人称の代名詞を用いた文の構造を理解する。 ・三人称の代名詞を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文から、三人称の代名詞の使い方を理解する。 ・自分の好きな有名人や家族を簡単に紹介する。	2 時間	
○この単元や今まで学習してきた知識を活用して、紹介文を書く。 ・友達や家族、好きな有名人について紹介する英文を書き、発表する。	2 時間	イ①

8 本時の展開

○本時の目標：

場所を聞いたり表したりする表現を正しく理解する。

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価規準	評価方法
1分	1. あいさつ Good afternoon. How are you? How's the weather? What day is it?	・教師の質問に答える。	・英語の授業が始まる雰囲気作りを行う。		
7分	2. 導入 -友達が部屋に忘れ物をしてしまったという場面設定で、電話のやりとりで導入する。 -Thinking Time を 20 秒与え、ペアで意味を考える。	・教師の問答を聞き、英文の意味を推測する。 ・起立をし、意味を推測したペアから座る。	・場面設定をし、小道具を使いながら自問自答を繰り返し、ターゲットセンテンスの意味を推測させる。 例) Where is my bag?—It's on the bed. ※活用場面を意識した導入とし、次の活動につながる語彙を使う。		
7分	3. 意味・用法の確認と練習 -ポイントを簡潔に示す。 -口頭練習を行う。	・ターゲットセンテンスの意味と用法を確認する。 ・チャンツを用いてリズムよく練習する。	・黒板にターゲットセンテンスを掲示したり、視覚的にも絵を示したりしながら、ポイントを簡潔に説明する。 ・全員が滑らかに言えるように、チャンツを用いてリズムよくリピートさせる。 ※一斉練習から個々に口頭練習を行い、全員が言えるか確認をする。		
7分	4. 活動 1 -インフォメーションギャップシートを用いて、自分の知らない情報を相手に聞いたり、相手の知らない情報に答えたりする。	・お互いの知らない情報について、ターゲットセンテンスを用いて聞き合い、ワークシートを埋める。	・活動の説明を分かりやすく行う。 ※活動 2 につながるように、あまり、時間をかけずに行う。	ア①	活動の観察
15分	5. 活動 2 (生き残りゲーム) -小学校での外国語活動で何回も行っている活動である。お互いに質問したり、答えたり	・情報（絵）が書いてあるカードを 1 人 5 枚持つ。 ・友達とジャンケンをする。 ・勝った方が質問をし	・活動のやり方を端的に説明する。 ・英語を使ってお互いに情報を伝え合っているか、机間指導をして確認す	ア①	活動の観察

	<p>しながら、カードを集めていく。</p>	<p>負けた方は相手が持っているカードの内容を推測し、答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 推測が当たれば、そのカードをもらう。 <p>やりとりの例：</p> <p>A+B: Hi. One two three go!</p> <p>A: Where is my cat?</p> <p>B: It's on the desk.</p> <p>A: Yes. Here you are. / No. Sorry. Bye.</p> <p>B: Thank you.</p>	<p>る。</p> <p>※活動に競争的な要素を取り入れることで、たくさんの人とコミュニケーションが取れるようにする。</p>		
13分	<p>6. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> -ワークシートを用いて本時のポイントを確認し、書くことで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて書く練習をする。 ・本時で学んだことを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことを確認できるワークシートを配布し、書くことで定着を図る。 ・ねらいが達成できたか生徒を指名し、たずねる。 	エ②	後日ペーパーテスト